

ごみ処理の 広域化は



ごみの出し方も違う

ごみ減量化こそ優先して論議すべき

各市町村の市民参加がたいせつ

市の広報12月号で、燃やせるゴミの広域しよりを検討していると案内があり、そこでは、施設を統合して運営すれば経費が削減できることがメリットとして強調されています。

しかし、ごみ行政は、経費のことも大事ですが、幸手市、杉戸町と久喜市が共同して「ごみ減量化」や「排出抑制」をどう実現していくか。そのことが最も優先的に議論されるべきではないでしょうか。

各市町間で 議論すべきことは

議論すべきことは

- 1、ゴミの発生を抑制するために「市民と事業者の役割」を明確に
- 2、ゴミの排出を抑制するために「減量、リサイクル、資源化」の目標値をどこに置くか決める。
- 3、2市2町間で異なる「分別収集の統一」をどうするか。

4、ゴミ焼却灰の最終処分をどうするか。

などです。各地域で住民の意識や、ごみ行政への関わり、歴史が違います。十分でいいない議論が必要です。

◆国や県でも、消防などとともに「ごみ処理広域化」をすいしんしようとしています。しかし今回、久喜市で進めているのは、「久喜市が単独で行うごみ処理事業に、幸手市、杉戸町のごみ処理を委託する」という委託事業です。

◆本来やるべき議論をせずに「広域処理受託ありき」で強引に進めるなら、「その広域化待った！」と言わざるを得ません。

「し尿処理」も統廃合か

市は、八甫クリーンセンター周辺の関係者に向けて「市民意見提出制度」（パブリックコメント）を使って、し尿処理に関する意見集約を1月11日から行います。

八甫クリーンセンターにあるし尿処理施設で宮代町、菖蒲地域、のし尿も処理をする前提での問いかけです。

市が検討した整備方針（概要）案についての意見を聞くという形になっています。

住民要求実現で住みよい久喜市を 日本共産党久喜市議団

URわし富団地の集約化に支援を



URは、団地の3街区で「集約化」を進めようとしています。（一部建て替え、リニューアル

ルなど）その際、高齢者・若者向けの「街づくり」も提案しています。居住者減少のURと、人口減の久喜市側と同じ課題があります。これまで何度か市に対しURの町づくりにも協議参加を訴えてきました。市は前向きな答弁をしました。同時に、建て替え・再入居の家賃値上げが心配です。「差額家賃に市の補助を」との提案もしましたが、これには消極的でした。

杉野 おさむ

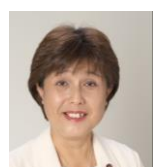
小中学校トイレ早急に改善を



小・中学校のトイレの現状は、においや、構造問題など、健康面やプ

ライバシーにかかわる、驚くべ現状した。教育委員会の認識は「不衛生的で、においが廊下や教室に流れ込み、児童生徒の健康面・衛生面での影響があり課題や問題がある。早急に学校のトイレの環境を改善する必要があると考えており、現在改修工事のための優先順位や予算確保等に向けて計画づくりを進めている」と回答。全てのトイレ洋式化とともに、早急な対応を求めました。へいま 益美

組織改革で市民サービス低下



今回の組織機構改革は、子育てと教育の一元化として驚宮総合

支所に子育て関係部署と教育委員会を移す、国保課を市民部に移行する、各地域保健センターを理科大跡校舎に統合するなど「市民サービス向上」とは逆である。議会では予算修正がされ驚宮支所への移転は見送られたが、効率や機能性のみ優先させるべきではない。利用する市民の側に立つべきだ。

渡辺 まさよ

バスなどの公共交通を便利に



デマンド交通は「30分前まで予約が可能」だが、病院からの帰り予約がとれない。「台数を増やして改善を」との間に、台数を増やすことは一つの方法。「エリアの見直しも必要では」との間に「見直しが必要と認識している」との答弁で、今後「地域公共交通会議の総合的な見直しの中で協議を行っていく」としています。乗合タクシーは、国から特別交付税が80%来ます。1億円の事業でも2千万円でできます。既存のタクシーを大幅に活用し、市民が気軽にかけける交通網を築くことが望まれています。

石田 としはる